

まんなか



地域看護学専攻科 開設される

地域看護学専攻科長 福岡 悦子

平成十六年四月、新見公立短期大学に地域看護学専攻科が開設されました。好天に恵まれ満開の桜が風に吹かれはらはらと舞い散っていた四月八日に、無事入学式を終えました。講義・演習に加えて、五月末より地域訪問実習がスタートしています。

地域看護学専攻科は看護基礎教育を基に教養科目、疫学、保健福祉行政論、保健統計学などの専門基礎科目等が系統的に学べるようにカリキュラムが工夫されており、公衆衛生看護学概論、各種の地域保健指導論等を学びます。修了時には保健師国家試験受験資格と養護教諭二種免許状が取得できます。

平成六年保健所法が地域保健法となり、保健所、市町村で働く保健師の業務内容が明確になりました。いずれの場所でも働くにも地域の特性を捉えること、専門的・技術的能力を高めることが求められ、調査・研究できることが重要とされています。一年間で多くのことを学ぶため、決して楽ではありませんが、学生と三名の専任教員は一丸となり、来年二月の保健師国家試験全員合格を目指し、頑張っているところです。



発行 新見公立短期大学（岡山県新見市西方二二六三の二） 〇八六七七一〇六三四

編集 学報編集委員会

第六回鳴滝祭

開催される

鳴滝祭実行委員長 坂本江里

五月十五、十六日の二日間に行われ、第六回鳴滝祭が開催されました。今年には新見、新見短大、新しいの「新」、地域の方との交流、親しみの「親」、自分の道を貫き、目標へと進んでいく「進」という三つの意味をもつそれぞれの漢字を合わせ、「新・親・進くしんく」というテーマを決め、学生だけでなく、子どもからお年寄りの方に楽しんで頂けるようさまざまなイベントを考えまし

た。一日目にはピエロ・マサヒロによるマジックバルーンアートショー、菓子まき、新見ウインドアンサンブル、学外バンド、ダンス部、ボランティア部などがメインステージを盛り上げました。二日目は女装・男装コンテスト、神楽とソーラン節、ビンゴなどが人々を楽しませました。またアメリカザリガニと安田大サーカスを迎えお笑いライブを行いました。その他、学科ごとの展示や模擬店、チャリティーバザーなども行われたくさんの方に足を運んで頂きました。大学祭を開催するにあたって温かくご支援くださいました皆様にご場をかりて厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。



学友会執行部より

学友会会長 好光いおり

私たち学友会執行部は各学科七名（うち、一年生各学科二名）で運営しています。学友会が主催する行事としては、新入生を対象とする学生交流会（四月）、学年を超えて各学科が一つになることのできるスポーツ大会（五月）、球技大会（十二月）、文化系部活動の発表を中心とするクリスマス会（十二月）があります。私たちはその企画から運営まで、すべての仕事を行っています。その他にも、大学祭のサポートや年二回の定例総会も学友会の仕事です。今年度のスポーツ大会は今までの種目をガラッと替え、新しい種目をたくさん取り入れました。種目内容やルールを一から決めていったので、例年より準備に時間がかかりましたが、当日はトラブルも起きず順調に進めることができ、例年以上に盛り上がり大成功を収めることができました。今年の特徴としては、綱引きの決勝戦で看護学科一・二年生が対決したことです。結果は二年生が優勝しましたが、来年の看護学科も期待できそうです。

からも学友会執行部をよろしく願います。



公開講座

公開講座委員長 石田純郎

平成十六年度の岡山県生涯学習大学の講義は、「生きる知恵」と題し、主として幼児教育学科と看護学科の教員により、十月八日から十一月二十六日までの毎週金曜日に、午前十時から十二時までと、午後一時から三時まで、本学で行います。

公開講座は本学の経営母体である阿新広域事務組合の各町、すなわち、哲西町、哲多町、神郷町、大佐町の要請・希望を受け入れ、各町において、出前講座を行います。

地域看護学専攻科

二挨拶



専攻科長

福岡悦子

同窓生の皆様。初めまして。私は本年四月に開設された地域看護学専攻科の福岡と申します。私はこれまで長期間産業保健に従事しており、産業看護の非常勤講師（岡山県立大学、岡山大学医学部保健学科、本学）としての経験はありましたが、専任教員としては初めてです。新米教員としては、学生に分かりやすい講義をと思え、学生にパワーポイント作成やネットからの情報収集などに力を入れていこうとします。講義の他に各種委員会等があり、慣れないこともあり緊張の毎日が続いています。若し学生とのふれ合いで元気なエネルギーをいっぱいもらいたいと思っています。一日も早く学生と本音で話し合いの議論ができるようにと願っています。

本学卒業生九名（現役五、卒業生四）を含む、全十五名の専攻科学生の出身県は静岡、京都、大阪、兵庫、岡山、広島となっています。学生と三名の専任教員が一丸となり、来年二月の保健師国家試験全員合格を目指し、頑張っているところです。皆

様どうぞ宜しくお願い致します。

本学卒業生は特別選抜という制度で入学できます。同窓生の皆様の中で保健師に興味のある方は是非受験して下さい。お待ちしております。



講師

矢庭さゆり

本年四月より、再び母校である短大の地を踏み、学生教育に携わっています。短大を卒業し、あつという間に二十年が経過しました。臨床経験をを経て、在宅介護支援センターの立ち上げから十五年間、地域の保健福祉現場と介護保険制度への移行期を経験し、地域に暮らす人々の生活を支えていくことを通じて多くの学びを得ました。その学びを生かし、心から保健師になりたいと願って入学してきた学生たちに、自分の持てる力を全て注いでいきたいと思っています。来春、十五名揃って巣立つ日を今から楽しみにしています。



幼児教育学科

大佐町国際芸術交流事業
(モニュメント制作)レポート

講師 金山和彦

平成十五年九月二十九日、十月八日、十二月二十九日、一月三日、この二度にわたる渡米の機会において、ニューヨーク市ニューパルツビレッジに十五年度大佐町国際芸術交流事業デザインコンペのための彫刻作品を制作・設置させていただきました。

制作は過酷でした。限られた時間の中で完成までのプランを構想し、実行していくことは非常に辛い仕事です(美術は楽しいもの? ではありません)。朝九時〜十七時まで工房にて型の制作・切断・加工、その間、様々な業者との打ち合わせ、濃厚な日々を送りました(サンドウイッチとペプシコーラの差し入れが一番の楽しみでした)。

完成した作品は「御堂渓谷」。大佐町の名勝でもあり、県の天然記念物にも指定されている渓谷景観です(日本人形みたいでしょ!)

今、御洞渓谷(彫刻)作品を眺めて改めて思うことは、コラボレーション(皆さんの手により、一つの作品を完成すること)による「作品の強さ」であります。現地において本学の山内助教や矢藤助教、ピレツジの皆様にも全面的なご協力を頂

きました。作品のたまたままいから、皆さんに作品制作に関わっていただいた時の映像が映し出されるようです。

ニューパルツビレッジと大佐町との姉妹縁組が始まり、五年が経過すると聞いております。五年目の年に彫刻作品が海を隔てて設立されたことは、まさに交流の証であると確信し、ニューパルツビレッジと大佐町が今後ますます交流を深めていけることに期待いたします。



よろしくおねがいします



助手

三好年江

三年間の非常勤助手を経て、今年度より常勤の助手として保育者養成に携わることとなりました。入学式では、先輩にあたる新入生と一緒に学歌を歌わせていただき、母校で働かせていただける喜びを味わうと共に、子どもたちの命や育ちに直接か

かわっていく保育者を養成するということに大きな責任を感じ、身の引き締まる思いがしています。

「とにかく子供が好き。」ということと幼児教育の道に足を踏み入れ、保育の現場では子どもたちのあふれる感性や、内に秘めた大きな可能性に触れ、その魅力に引き込まれていきました。そして、今、保育者養成においては、子どものことについて考える学生の真摯な姿やさまざまな経験を通し、自己を見つめ揺れながらも、社会人として保育者として自立しようとする学生の育ちに、新鮮な感動と喜びを覚えていきます。愛されるべくしてこの世に生まれてきた子どもたちに、不器用でも、愛情いっぱい一杯、とことんかかわっていただける保育者になってもらいたいというそんな願いをこめて、保育者養成に携わっていきたいと思います。

新見公立短大に入学して

一年次生 福岡 菜摘

入学当初、私の気持ちの沈みようといったら半端ではなかった。初めて親元を離れ一人暮らしになった寂しさや、慣れない学校や周りの環境など、たくさん不安、期待していた短大生活とのあまりの違いにこの先の短大生活への希望は全くなかった。そんな私とは対照的に、生き生きとした先輩方の明るさ、元気のよさには圧倒された。あの明るさは一年間自分の夢に向かって、多くの事

を学び、経験され、努力された結果、自然と出てくるものなのだろうと思つた。一年後の私に先輩方のような明るさ、元気さがあるだろうか。

入学して一ヶ月が過ぎた今、友達も増え、一人暮らしにも、学校や周りの環境にも少しずつ慣れてきた事で気持ちも落ち着いてきて、初めての科目ばかりで不安だった授業も、自分が好きで選択した将来の道に関する授業などだけにとてもおもしろく、一ヶ月前と比べると明らかに自分の気持ちが大きく変わってきていることがわかる。

二年間、保育士になるという夢に向かって、この新見公立短大で多くのことを学び、経験し、たくさん努力をした後、自分がどれだけ大きく変われているか、そして二年後どんな保育士になっているか、今から楽しみだ。



看護学科

看護師国家試験全員合格



二十二期生副担任
(国試対策担当)
真壁 幸子

【国家試験が変わった】

第九十三回看護師国家試験が平成十六年二月二十一日に実施されました。昨年までは午前百五十問(客観式一般問題)で二時間四十五分、午後六十問(客観式状況設定問題)で二時間という出題形式でした。今年から必修問題という看護師になるための基本的問題が三十問追加されました。そのため午前に三十問(客観式必修問題と百二十問客観式一般問題)で二時間四十五分、午後三十問(客観式一般問題)と六十問(客観式状況設定問題)で二時間三十分という出題形式に変更されました。問題が増え、試験時間が三十分延長されたのです。また、必修問題の採点方法は八割(つまり二十問中二十四問)確保できなければ、全体では合格圏内にあっても、不合格になるという絶対基準で行われました。

【課題を見事にこなした学生たち】

学生は四月から看護学実習が始まり、忙しい中で看護研究、就職・進学準備そして国家試験勉強という様々な課題をこなしていかなければなりません。私たち教員は、国家試験全員合格に向けて学生を励まし続

けました。「実習で出会う対象の看護について一生懸命勉強することが、国試につながるから」と繰り返し助言しました。全ての実習終了後(十一月中旬)、到達度試験という関門が六領域(成人・老年・小児・母性・地域・精神看護学)で実施されます。この試験に合格して初めてそれぞれの実習単位が認められるのです。到達度試験の頃から、学生の意識が国家試験に強く向いてきました。この試験をクリアしないと実習単位が得られないという、切迫した状況も影響していたと思います。このときの学習が、国試合格の大きな財産になったように思います。

【自信をつけて臨んだ本番】

国家試験模試の成績も回数を重ねることに上昇し、全国でもトップレベルになりました。そして学生は国家試験全員合格というすばらしい結果を出しました。学生たち一人一人が励ましあい、助け合いながら、看護師国家資格という念願の資格を手に入れました。おめでとう！

サクラサク、〇四春！



二十二期生
西村 友江

私たち看護学科二十二期生は、看護師国家試験に全員合格しました。そこで、今回、私の「国試必勝法」三つの柱「**一**」について紹介します。まず「**一**」の柱は、基礎学習を基

にした実習です。患者さんに個別性のある看護を行い、またカンファレンス等で他学生の症例の基礎知識や看護計画について知識を共有しました。実習での学びは必ず身に付き、自信につながりました。

二つ目は模試や問題集を納得いくまでひもとくことです。自分の弱点を見つけ、疑問点はすぐに調べるようにしました。日々の学習の積み重ねは、必ず合格へつなぐと実感しました。

最後に三つ目の柱は、友達です。お互いに分からないところを教え合い、助け合ってきた友人の存在は、国試本番の心の支えになりました。以上が私の必勝法です。受験生の皆さんの参考になれば幸いです。

あきらめない！とー！



二十二期生
住田 麻季

夢への第一歩は、決めてあきらめないことです。国試に合格して初めて「あきらめない」という言葉の大切さを知ることができました。

実習での学習は、実際に対象を観察しケアをしていく中で、体験的な理解が深まりました。さらに事前演習や、実習グループの仲間のケースカンファレンスで、知識を広げ深めることができます。実習での学びは国試に結びついていると感じました。

実習到達度試験に向けての勉強は自分の力になり、気持ちも引き締まりました。国試直前は過去問を何度も繰り返し解いたり、模試の見直しをしたりしました。大事なところをレビユーやセサミに書き込んで、自分なりの参考書を作ったこともおおいに役立ちました。

国試は、日々の積み重ねが大切だと思います。そして一生懸命やったことは、必ず結果として出てくることを実感しました。

新任教員挨拶「さくらサク〜」



母性・小児看護学
助手
岡 宏美

このたび、看護学科でお世話になることになりました。母性・小児看護学を担当させていただきます。

今までは、倉敷市内の病院で産婦人科と未熟児センターを経験してきました。現場での看護は大変楽しく、新しい命が誕生する場に立ち会い、毎回多くの感動を味わってきました。特に感動するのは、初めて赤ちゃんと抱っこする時の産婦さんの表情が「母の顔」になる瞬間です。

これから教員という立場で学生の皆さんとその感動を分かち合えたらと思っています。教員としてはまだまだ未熟ですが、学生の皆さんと共に学び、成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願致します。

地域福祉学科

高校での学びを生かして

一年次生 永本博美

私は、兵庫県西宮市にある西宮東高校から来ました。西宮市には、全国の野球少年の憧れ「甲子園球場」があります。私の高校は、そこからすぐ近くにありますが、そこから遠くには、海も近い海風が入ります。そういった自然や球場が近くにある高校が、私は大好きです。また、他校ではあまり聞かれない一時限が六十五分の授業でした。

私は、高校に入った頃から福祉に興味・関心を持ち始め、近くの老人ホームで週四・五日、一年間アルバイトをしました。そこでは、食事・入浴介助や排泄介助などいろいろなことを経験しました。その中でも私がかもつとも学んだことは、利用者さんの気持ちを理解すること、会話を大事にすることです。初めは誰もが他人に介護されることに抵抗があると思います。そういった気持ちを理解すること、そして分かりたいと思うことが、利用者さんと接するにあたって大切なことだということをアルバイトを通して学びました。

このような経験をして、今は短大で福祉について多くのことを学び始めました。ここで学ぶすべてのことを生かし、立派な介護福祉士となつて、私たちの手を待っている方の支えになりたいと思っています。



「地域文化演習」に取り組んで

二年次生 高村英希

僕は「地域文化演習」という授業で、「備中神楽」と「草木染め」をやっています。「草木染め」は先日哲多町にある工房に出かけて学習してきました。「草木染め」は布に色をつけるだけの簡単な作業だと思っていました。傷つきやすい布を、ソンドウという大鍋で水から沸騰させ、付着している糊を除く作業がデリケートで、時間のかかるものでした。また冬青（そよご）という木の葉から色素を抽出する染料製作の工程では、適宜、木の葉の様子を見ながらかきまぜたりしなければなら

ず、やはり時間と手間のかかる作業でした。

本格的な「染め」をするのは初めての体験であったので、見ることもすることも全て新鮮で、とても興味を持って取り組むことができました。

媒染が終了して染め上がった布を見たとき、「木の葉からこんな色ができるんだ……」と実感することができ、貴重な感動を経験できたと思います。

「神楽」は、地域の人々が培ってきた生活の中での意味や伝統を、舞を通じて学ぶことができます。これは一年間通して学んでいくので、進捗はゆっくりですが、それぞれの役割が難しく、覚えるのに苦労しています。地域の特色ある文化に触れることにより、新たな知識と経験が得られるので、とても楽しく授業を受けることができます。



同窓会の コーナー

「心あたたまった一言」

幼児教育学科第九期生 杉山 由美



保育士になってはや十四年。その間に言いつくせない程の出来事があったのを昨日のように思い出します。その中で昨年五歳児クラスを担当させて頂いた時、運動会前にリレーをしている時の事……四つのチームに分かれている時に、走るのが苦手なA君と同じチームになった子はあからさまに嫌な顔をしていました。その時にB君が突然「俺が遅い分走ってやる」と言ったのです。その後クラスの中で、出来る子が出来ない子を応援してあげる姿が見られはじめました。

「気持ち悪いやる」心が失われかけている昨今、心のアたたまった一言でした。まだまだ未熟な私ですが、「共に育つ」の言葉どおり、一歩一歩子どもたちと歩んでいき、より良い保育が出来るよう頑張っていきたいです。



地域福祉学科第四期生

佐々木 裕美

早いもので、短大を卒業して三年という月日が流れました。卒業という点に関しては、私は今春に再び卒業を迎え、新社会人として働き始めたばかりです。短大を卒業し、老人福祉施設でケアワーカーとして働き始めたものの、実習の時から感じていたメンタル面のケアに対する不十分さを目の当たりにすることになりました。そして、利用者のニーズに耳の傾けることのできる専門職になりたいと考えました。思い立ったら即行動の性格に加え、ゼミ指導担任の岩崎先生のアドバイスに励まされ、退職し社会福祉士になるために編入をしました。短大で学んだ介護のベイスがあつたおかげで、よりメンタル面に重点を置き学ぶことのできた二年間でした。現在は、岡山市内にあるグループホームに勤務しています。本来、グループホームには社会福祉士は必要とされていませんし、職員数もワンユニットに対して三人で認可されます。しかし、十人の職員で倫理や概念をしつかりと持ち充実したケアが行なわれていきます。個別ケアが行なわれ、利用者の残存能力に気付かされ驚きの毎日です。個人を認めることが出来るので利用者に対して尊敬の念が自然と持てるよう

に感じていきます。対人間の仕事なので難しさは尽きませんが、喜ぶも尽きることの無い、やり甲斐のある仕事です。これからも、悔いのないように常に前向きにチャレンジしていきたいと思えます。

「新しい道を開拓したい」

地域看護学専攻科

看護学科第十五期生 佐野仁美
看護学科第十七期生 見座千佳子
看護学科第二十期生 駒井貴子
看護学科第二十一期生 木原真悠



私たちは、本学看護学科を卒業後、病院での臨床経験を経て専攻科に入りました。それぞれが異なった現場で地域看護に対する思いを持ち続け、今春、母校で出会いました。臨床では、入退院を繰り返す方や障害を持つて自宅に帰る方など、多くの方とのかわりを通して、地域と密接に関わりながら、健康増進・予防

に努める必要性を強く感じました。

久々の学生生活に戸惑いは感じませんが、これからの実習で、地域の多くの方々との出会いに胸膨らませていきます。これまでの経験を生かし、先生方やクラス全員で専攻科の新しい道を開拓していきたいと思えます。

看護学科第二十一期生同窓会開催

私たちが卒業して約一年後の平成十六年三月二十日、新見にて同窓会を開催しました。三十三名の卒業生が集まり、三名の先生方もご出席くださり、以前と変わらない笑顔に出会い、楽しい時間を過ごすことができました。



学報「まんさく」や同窓会のページについてのご感想、ご要望などがございましたら遠慮なくお知らせ下さい。(e-mail:mansaku@nimi-c.ac.jp)

在籍者数

2004.5.31現在

| | 看護学科 | 幼児教育学科 | 地域福祉学科 | 地域看護学専攻科 | 計 |
|------|------|--------|--------|----------|-----|
| 1年次生 | 64 | 53 | 56 | 15 | 188 |
| 2年次生 | 63 | 52 | 56 | | 171 |
| 3年次生 | 77 | | | | 77 |
| 計 | 204 | 105 | 112 | 15 | 436 |

出身都道府県別在籍学生数

2004.5.31現在

| 府県 | 学年 | 看護学科 | | | 幼児教育学科 | | 地域福祉学科 | | 地域看護学 | 合計 |
|--------|----|------|----|----|--------|----|--------|----|-------|-----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 1年 | 2年 | 1年 | 2年 | 1年 | |
| 福島 | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 新潟 | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 石川 | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 福井 | | | | | 1 | 1 | 1 | | | 3 |
| 静岡 | | 1 | 1 | | | 1 | | | 1 | 4 |
| 愛知 | | | | 1 | 2 | 1 | 1 | | | 5 |
| 三重 | | | | | | 1 | | 1 | | 2 |
| 滋賀 | | 1 | | | | | | 1 | | 2 |
| 京都 | | 1 | | 1 | | | | 1 | 1 | 4 |
| 大阪 | | 2 | 1 | 2 | 1 | | | | 1 | 7 |
| 兵庫 | | 17 | 19 | 18 | 10 | 8 | 6 | 7 | 2 | 87 |
| 和歌山 | | 2 | 1 | 2 | 1 | | | | | 6 |
| 鳥取 | | 2 | 2 | 2 | 5 | 5 | 6 | 4 | | 26 |
| 島根 | | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 7 | 6 | | 43 |
| 岡山 | | 10 | 12 | 16 | 5 | 8 | 11 | 13 | 9 | 84 |
| うち阿新地区 | | | | | | | | | | |
| 広島 | | 6 | 4 | 11 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 30 |
| 山口 | | 2 | 3 | 2 | 3 | 6 | 3 | 2 | | 21 |
| 徳島 | | 1 | 5 | 3 | 2 | 1 | 1 | | | 13 |
| 香川 | | 3 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 4 | | 16 |
| 愛媛 | | 3 | 1 | 1 | 5 | 6 | 4 | 3 | | 23 |
| 高知 | | | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | | | 8 |
| 福岡 | | 4 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 2 | | 10 |
| 佐賀 | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| 長崎 | | 1 | | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | | 9 |
| 熊本 | | | | | | | 1 | 2 | | 3 |
| 大分 | | 1 | 2 | | 1 | 1 | | 3 | | 8 |
| 宮崎 | | 1 | | 1 | 2 | | | 1 | | 5 |
| 鹿児島 | | | 2 | 3 | 3 | 1 | 2 | | | 11 |
| 沖縄 | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 合計 | | 64 | 63 | 77 | 53 | 52 | 56 | 56 | 15 | 436 |

いんこうさま
転出
幼児教育学科講師
主幹
光本 弥生
西村 勉
退職
看護学科助手
係長
福原 博子
山下 洋子
新採用
地域看護学専攻科教授
地域看護学専攻科講師
矢庭さゆり
幼児教育学科助手
三好 年江
岡 宏美
看護学科助手
転入
主幹
谷口 暁實
福岡 悦子

昇格
看護学科講師
栗本 一美
異動
地域看護学専攻科
助教 金山 時江
受賞のお知らせ
平成十五年度には本学石田純郎教授が研究課題「江戸時代後期に受容したオランダ医学についての基礎的・史料的研究」により山陽放送学術文化財団の研究助成金を受賞されました（第三十五回谷口記念賞）。記して慶祝の意を表したいと存じます。



編集後記

無事にまんさく二十八号が完成のはこびとなりました。まんさくを読んだ時の皆さんはどのような日々を過ごされているのでしょうか？在学生は、それぞれの学科の過密なスケジュールをこなしながらもちよつと疲れ気味でしょうか？同窓生の皆さんは現場での支援や保育・看護に追われているのでしょうか？いずれにせよ、それぞれの目標や仕事に誇りを持って日々努力をし、成長を続けていることと思います。新見公立短期大学も、少子化や大学改革の波に追われながらも、本年度より地域看護学専攻科がスタートするなど成長を続けています。
今後この「まんさく」で大学の近況や成長を伝えていきたいと思えますので、ぜひ皆さんも気軽に近況などを伝えて下さい。楽しみに待っています。
イラスト・大野加奈子 (東)

編集委員
委員長
原田 信之
古城 幸子
山内 圭子
吉村 淳一
東村 俊一
矢庭 さゆり
神原 光